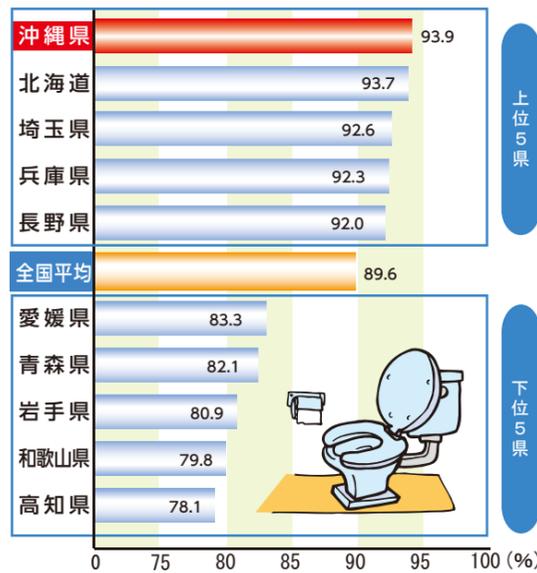


【洋式トイレ保有率】

(2008年)



上位5県

下位5県

93.9%

高齢者や障がい者、乳幼児連れの母親等向けの多機能トイレを設置する公共施設が増えてきた。使いやすさや設置の簡便さからトイレは和式よりも洋式が主流となっている。最近では、和式トイレの使い方がわからないという子供も多いようだ。

総務省「2008年住宅・土地統計調査」によると、住宅における洋式トイレ保有率は全国平均で89.6%。一方、沖縄県は93.9%と全国1位の水準となっている。洋式トイレの普及を推し進めた背景には戦後の米軍統治の歴史も影響しているようだ。

近頃は“省エネ”傾向で節水トイレに変える家庭も増えている。古くはワフルヤーの豚にお世話になった沖縄だが、トイレ水洗化率も97.2%と全国1位。雨水利用など節水対応も進んでいるが、かつての豚さんトイレが一番省エネだったといえるかも…?

(海邦総研人材開発部/屋比久有紀)

【1年に風邪をひいた回数】

(2011年度)

都道府県別 風邪をひいた回数 (回)	回復までの 日数 (日)	
1位 富山県	2.76	5.19
2位 沖縄県	2.71	4.39
3位 新潟県	2.66	4.87
4位 長崎県	2.59	4.67
5位 宮城県	2.56	4.96
全国平均	2.34	4.73
43位 鹿児島県	2.06	4.13
44位 宮崎県	2.02	4.39
45位 石川県	1.95	4.57
46位 和歌山県	1.94	4.26
46位 山梨県	1.94	4.56

2.71回

「風邪(かぜ)」は、俳句で冬の季語。中国医学の風の邪気「風邪(ふうじゃ)」によって引き起こされる発熱や寒気等の症状を示す病気の概念が日本に伝わり、“かぜ”と呼ばれているようだ。

ウェザー・ニューズ社が昨年12月に行った「日本の風邪の調査」によると、沖縄県の場合、1人あたり年平均風邪をひいた回数は、2.71回。約4ヶ月に1回、風邪をひいたことになる。

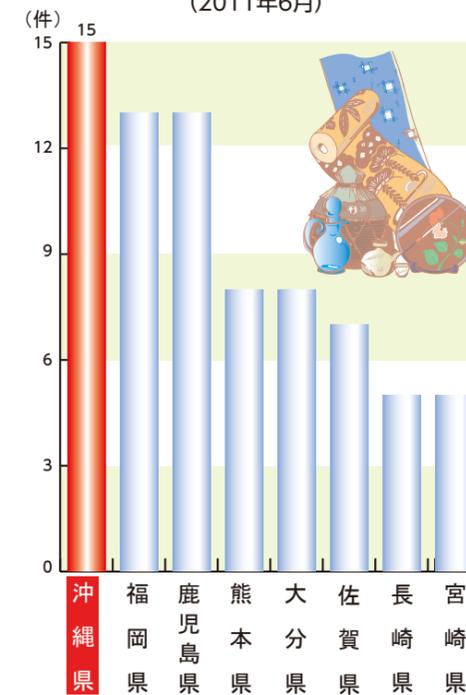
冬に雪が降る地域で風邪をひく回数が多いなか、南国の沖縄が、全国で第2位に入っているのだ。ただ、風邪が治るまでの日数は、4.39日で、全国でも4番目に短く、うちな〜んちゅの“がんじゅーさ”がうかがえる。

これから年末年始の疲れが出て、身体を冷やすと風邪をひきやすい時季。まずは休養と栄養補給で体調管理をすることが、何より風邪の予防になるのでは?

(海邦総研人材開発部/安田ひろみ)

【地域団体商標登録件数】

(2011年6月)



15件

町おこしや産地の活性化などを目的として、地域の特産品などを利用した地域ブランド作りが広がっている。

特許庁「地域団体商標登録件数」によると、2011年6月の沖縄県の地域団体登録件数は15件で九州地区トップとなっている。

地域団体商標とは、従来の商標法では登録が難しかった、発展段階にある地域の特産品などを、基準を緩和して登録しやすくできるようにしたもの。農水産物や工芸品だけでなく、温泉地なども登録されている。

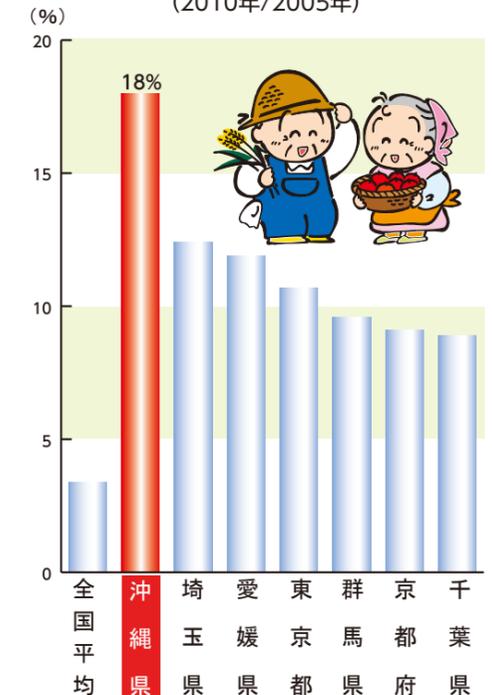
沖縄には亜熱帯特有の農水産物や、独特な気候・風土に育まれた特有な文化などを背景に、県外にはない特色を持った地域資源が多い。

地域資源のブランド化を目指した魅力ある様々な商品やサービスが開発され、地域の活性化につながることを期待したい。

(海邦総研経営企画部/國吉真吾)

【シルバー人材センターの会員増加率】

(2010年/2005年)



18%

仕事を通じて社会参加や健康づくり等を求めているおむね60歳以上の方々が登録しているシルバー人材センター。

企業や家庭、自治体等から臨時的、短期的な仕事を受注して仕事を行う仕組みになっているが、年々登録する会員は増加しているようだ。

社団法人全国シルバー人材センター事業協会によると、2010年の沖縄県の登録会員数は5755人。5年前の4878人から877人も増えており、増加率は18%と全国一だ。

職群別事業実績は、清掃作業等を含む一般作業群が6割を占めるが、これまでに培った技術や技能分野を活かす実績も増えている。

会員の年齢構成は70歳~74歳が全体の3割を占めるが、80歳以上の方も326人登録している。

これからも元気なシルバー世代が活躍していく機会が増えていくことを期待したいものだ。

(海邦総研事業支援部/比嘉明彦)